

TSY MANINONA

JOURNAL SUR MADAGASCAR



木川 莉江 KIGAWA RIE

JICA青年海外協力隊として
マダガスカルのアンブイマナンブラで活動
大塚製薬株式会社より現職参加
(2021-3次隊/コミュニティ開発)

農村住民への生活改善研修を終えて

あっという間に全地域での生活改善研修が終わり、10月31日に任期が終了し、日本に帰国して早くも1週間になりました。日本からマダガスカルへの思いを馳せながら最後の通信を書いています。

生活改善の活動を経て、下記の効果がみられましたので一部紹介いたします。大きな変化は起こせなかったですが、関わった方の少し変化が見られたことが私の中でとてもとても嬉しく、心に深く残っています。

①住民グループの組織強化

新たな女性グループの結成。生活改善講習をきっかけに「住民グループ・女性グループが必要ではないか」という声が上がった地域が3地域あり、新たな女性グループが結成した。生活改善講習を受講した女性をご近所の8つの家庭に自主的にかまど・泥炭を教えていて、住民グループの組織強化を図れた。

②生活の質改善

ある地域で実施した生活改善講習の翌週には50%（14人中7人）が既に自宅で改良かまどや泥炭を作成。一部の人は既に使用し、節約効果を実感していた。2つの女性グループは自主的に生活改善活動を継続、要望がある際のみ随時情報提供・講習を実施。

③メンバーの意識変化

右耳が難聴で元アルコール中毒だったメンバーは生活改善チームメンバーになり約3ヶ月後、意識が段々と変わり無料の職業訓練校に通い始めた。1月には卒業予定。

④収入向上

1家庭で泥炭の継続使用の節約効果により貯金ができ、さらに販売も開始し収入になっている。幼稚園の先生グループがお菓子ごみの袋を用いた小物やバッグの販売を本格的に販売し始めた。





LE MOIS DERNIER À MADAGASCAR MERCI BEAUCOUP

マダガスカル人に学んだ2つのこと

マダガスカルで出会った人々から本当に数えきれない位に多くのことを学びました。特に下記の2点は、今後生きていく上でずっと忘れずに意識していきたいと思っています。

変えられないことに対して

Tsy maninona 「気にしないで、大丈夫」
といえる心の広さ、寛容さを持つこと

1人でできることの小ささ

逆に周りの人を巻き込みながら熱い気持ちを持って
起こした行動は人の気持ちや行動に
変化を与える可能性がある

寛容で心優しく、少し恥ずかしがり屋で、踊りが得意なマダガスカル人。そんな心のとても暖かいマダガスカル人が好きになりました。またいつか、必ず、マダガスカルに戻ってきたいと思います。

今後の目標もでき、マダガスカルでの協力隊経験は私の人生を変える大きなきっかけになりました。この学びを活かし、今後も新しい環境で精一杯頑張りたいと思います。約1年半、マダガスカル通信を読んでくださった心優しい皆様、誠にありがとうございました。Misaotra imdrindra!

“

Mandrapihaona

「またね」という意味
またいつかきっと、大好きなMadagascarに
戻ってきたいと思います
Misaotra! Mandrapihaona!



パフォーマンス分科会で実施したライブ



空港まで来てくれた任地の人たち



マダガスカルJOCVが開いてくださった送別会

